

滞納

滞納額は約32億7千万円

税金や使用料などで22年度までに納められなかった金額は、約32億7千万円まで膨らんでいます。今後も納期内に納付した人や納税義務の公平性を保つために、差し押さえや法的措置などの厳しい措置を行います。

平成22年度までの主な滞納額	
町民税	1億3,281万円
固定資産税	1億9,734万円
軽自動車税	2,496万円
国民健康保険税	2億3,602万円
保育料	8,024万円
住宅等使用料	2億3,813万円
住宅管理料	1,223万円
学校給食費	4,062万円
住宅新築資金等貸付金	20億1,576万円
水道使用料	2億8,592万円

地方債(普通会計)

町の借金残高は約223億円

年度を越えて元利を償還する借入金を「地方債」といいます。22年度末の残高は21年度から約3億7千万円解消し、約223億円となっています。福智町の場合、償還額の約66%が普通交付税措置されますが、多額の元利償還金は財政負担を圧迫しています。今後も合併効果を表しながら借金を減少させないといけません。



特別会計

国保と診療所が大幅な赤字を抱える

特定の事業を行うために一般会計と分けて設置される特別会計では、国保が約7億5千万円、診療所が約2億7千万円の赤字を出し、厳しい状況に直面しています。

区分	歳入	歳入歳出差引
住宅新築資金等貸与事業	1億9,065万円	3,080万円
国民健康保険	27億4,551万円	-7億5,460万円
後期高齢者医療	2億5,741万円	387万円
老人保健	436万円	355万円
町立診療所事業	5億4,458万円	-2億7,202万円
田川郡町村公平委員会	106万円	43万円
水道事業(収益的事業)	5億6,996万円	1,450万円

健全化判断比率・資金不足比率

早期健全化基準は全てクリア

健全化判断比率	福智町	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率*1	(△)15.82%	13.79%	20.00%
連結実質赤字比率*2	(△)8.83%	18.79%	40.00%
実質公債費比率*3	14.5%	25.0%	35.0%
将来負担比率*4	(△)71.0%	350.0%	—

健全化判断比率	福智町	早期健全化基準	備考
資金不足比率*5	(△)90.1%	20.0%	水道企業会計での算定

※赤字が生じない場合は「—」で表示、参考値の黒字比率を(△)内に掲載。
 *1 普通会計の赤字から財政運営の深刻度をみる比率
 *2 すべての会計の赤字から財政運営の深刻度をみる比率
 *3 借金の返済額等の大きさから資金繰りの危険度をみる比率
 *4 町が抱える負債の残高から将来財政への圧迫度をみる比率
 *5 企業会計の資金不足割合から経営状況の深刻度をみる比率

決算概要 財政硬直からの脱却

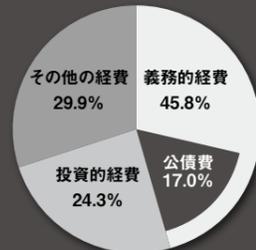
滞納解消・歳出の無駄を徹底的に省く

歳出を前年度と比較すると約12億4千万円の大幅な減額となっています。その要因は、公債費が7億2千万円の減額・町営住宅建設などを含む普通建設事業費が5億3千万円の減額によるものです。また、財政硬直化をはかる経常収支比率は4.3%減少したものの、93.1%と依然高い水準です。今後は、自主財源の根幹をなす税や使用料、貸付金などの徴収率の向上、さらに、歳出の無駄を徹底的に省くと共に、合併特例事業、過疎対策事業を効率的かつ有効的に活用し、中期財政計画をもとにして財政の硬直化からの脱却を図ることが急務な課題となっています。

一般会計歳出

歳出額は約151億円

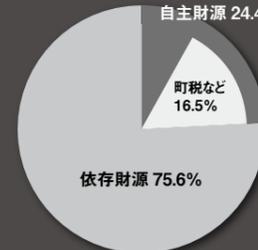
前年度に町が支出した一般会計の総額は151億円。これを性質別に見ると、人件費・扶助費・公債費の「義務的経費」が約68億9千万円で全体の45.8%、そのうち借金を返済する公債費は約25億6千万円で、全体の17.0%となっています。また「投資的経費」は約36億7千万円で全体の24.3%、そのうち普通建設事業費は昨年より5億3千万円減額の約28億4千万円で、全体の18.8%を占めています。



一般会計歳入

歳入額は約164億1千万円

町に入った昨年の一般会計の歳入は164億1千万円でした。内訳は、国や県に頼った依存財源が75.6%、町でまかなう自主財源が24.4%です。しかし自主財源には、基金の取り崩し(約3億3千万円)や前年度からの繰越金(約9億3千万円)が含まれ、町税などの収入は約27億1千万円で、全体の16.5%にとどまっています。依存財源の中で最も多い割合は地方交付税で、歳入全体の38.5%を占めています。



決算

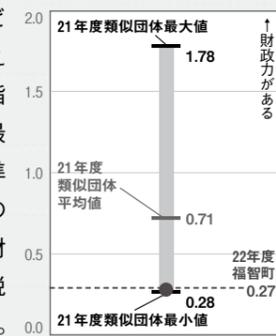
平成22年度まちの財政通信簿

平成22年度決算がまとまりました。歳出決算額は約151億円で、実質収支は約13億円の黒字でした。前年度の町のお金と財産の現状、今後の課題をみなさんの目でチェックしていきましょう。

財政力指数

全国最低水準の財政力

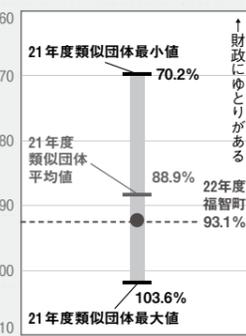
基準財政収入額を基準財政需要額で割った過去3年間の平均値が「財政力指数」です。指数が高いほど自力があり、指数が低いほど国への依存が強いといえます。福智町の財政力指数は21年度類似団体の最小値で、全国最低の水準です。今後、地場産業の活性化、企業誘致など財政基盤の強化により、税収入の確保が必要です。



経常収支比率

昨年度より4.3%減少も依然危険水準

人件費など毎年必ず必要とする経費を比較的安定している収入で割った指数が「経常収支比率」です。普通会計の経常収支比率は93.1%で、前年度より4.3%減少しましたが、21年度類似団体平均値を4.2%上回っており、依然として財政構造が硬直化しています。今後も継続して人件費などを含む経常経費削減の徹底を図ります。



基金(普通会計)

町の貯金残高は約135億円

法律や条例に基づいて設置される「基金」は、特定の目的のために活用できます。普通会計では24の基金があり、22年度末の残高は約135億円です。22年度は公債などを計画的に減らしていくための「減債基金」へ約6億円積み立てたことなどにより、基金総計では前年度と比較して約4億4千万円の増額となっています。

